

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に理念を掲示し、随時確認できるようにしている。理念に沿った支援の実施が出来るよう管理者とスタッフは随時コミュニケーションを図るように努めている。	法人とホーム独自の理念がそれぞれ玄関やホールに掲示されており来訪者に分かるようになっている。利用契約時、理念について家族に話をしている。月1回の職員会議で理念を読み合わせ、自分の言葉で理解を深め実践に取り組んでいる。管理者と職員が1対1で話し合う機会をなるべく多く設け理念の理解を深めると共にモチベーションアップに繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事などの確認を行い必要に応じ随時参加している。地域の小中学校生徒との若年世代との交流等、近隣の方と積極的にコミュニケーションを図っている。	自治会費を納め地域の一員として活動している。地域で行われる防災訓練に参加し、安全確認や通報訓練等に参加している。社会福祉協議会主催の「ふれあい広場」にはコスモス松川コーナーを作って頂き、利用者の一年間の作品づくりの成果を紹介している。中学生の職場体験も引き続き受け入れており3日間9名が来訪し傾聴、散歩、掃除、配膳などで利用者との交流を深めている。更に傾聴、踊り、草取り、大正琴等、多くのボランティアの来訪もあり交流の機会を持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人のHPで日常生活の様子や新聞等で伝え、地域の方への認知症に対する理解を深めて頂いている。また毎年、中学生の福祉体験学習の受け入れを通じ、認知症の人の理解や支援に取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用状況等の報告、参加者からは地域の行事等の情報提供、災害時の協力体制の話し合い等、双方向的な話し合いを行えるよう努めている。また積極的に委員からの意見を取り入れる事で、サービスの質の向上に努めている。	2ヶ月に1回、家族、民生委員、町保健福祉課職員、地域包括支援センター職員、ホーム職員が出席し開催している。当ホームの特徴として全家族に会議案内をし、また、家族の出席も多くあり、職員も多く出席することである。そのような中、利用者の生活の様子を写した写真をテレビで紹介し活動報告をした後、自由に意見を交換し運営の向上に役立てている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	困難事例の受け入れの相談依頼もあり、自主事業にも注力を注ぎ、事業所として対応できるような体制を整え、利用者を受け入れるよう取り組んでいる。	町役場に出向いたり電話等で自主事業など様々なことについて連絡、相談し、協力関係を築き利用者の紹介も頂いている。介護認定更新調査は調査員が来訪しホームにて行っている。家族に日程などを連絡し、立ち会う方もいる。年3回実施される地域ケア会議やパネルディスカッションなどにも参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上、施設玄関は施錠しているが、希望時出入りを自由に行う事が出来ている。また身体拘束をしないケアについて内部研修を行い知識を高め日々の実践に取り組んでいる。	玄関は安全確保のため施錠している。現在拘束を必要とする利用者はなく、外出傾向の強い方もいない状況である。転倒防止のため家族と相談の上センサーマットを数名の利用者が使用している。職員会議や新人研修等で年1回外部より講師を招き研修会を行い、話し合いを重ね理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議にて虐待についての知識を職員間で共有し、心理的・身体的虐待の防止に取り組んでいる。また職員同士も、日々のケアを振り返り自己研鑽に努めている。		

グループホームコスモス松川・2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見人制度等、職員会議で管理者が説明し、理解・共有を深めるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には詳細な説明を行い、理解し納得を得た上で契約を結んでいる。改定時にも書面や電話連絡を行い、理解し納得を得るよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の関わりの中で話しやすい雰囲気作りを心掛け、意見、不満、苦情を話す事が出来る関係作りに努めている。家族からの意見は、運営推進会議等で外部に表わす機会があり、運営に反映できるよう取り組んでいる。	ホーム便り「コスモス松川便り」を毎月発行し請求書とともに送付し、ホームでの生活の様子を家族にお知らせしている。家族の来訪は週2~3回の方から年数回の方まで様々であるが全家族の来訪があり居室でお茶をお出しし利用者と寛いでいただき、意見・要望も聞いている。現状、家族会は運営推進会議の後実施しているが、今後、年1回は親睦を兼ねた内容で行う予定である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営方針について管理者のみで決定するのではなく、会議や個人面談の中で職員の意見や提案を聴取し、それを取り入れている。また日々の中でも気づきがあれば、意見を管理者に伝え、次の会議で話し合うように取り組んでいる。	月1回、月末の午後、職員会議を実施している。利用者の状況や運営等について活発な意見交換の場となっている。人事考課制度があり目標管理による個人面談を年2回行い評価に繋げている。管理者が気軽に職員と話す環境が出来ていると共に、年2回全職員での懇親会あるいは年1回の日帰りでの親睦旅行を実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	職員1人ひとりに持ち味があり、各職員がそれぞれの力を発揮できるよう努めている。管理者は定期的に個人面談を実施し、意見を聴取した上で職場環境の整備をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修予定を立て、事業所内で研修を行っている。また法人内でも合同の研修会・勉強会を行い、知識・技術にのみならず、人間として成長できるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人としての他事業所への視察・見学の機会を設け、積極的に外部の良い所を吸収し、サービスに反映・質の向上に努めている。		

グループホームコスモス松川・2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接で聞き漏らしている事等、入居後も日常の会話の中から本人の希望や要望を傾聴し、本人の望む事を少しでも可能に出来る事で、安心できる空間を確保し、よりよい関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と面談時によく話し合い、家族の希望を受け止め説明を行い、信頼関係を築いていけるよう努めている。また入居後も、お便り等で利用者の状態を報告し、家族の希望に沿えるよう支援に取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた段階で、本人と家族の双方から話を伺い、課題抽出と分析を行っている。緊急性も含め、その方にとってより良いサービスが適切な時期に受けられるよう、他のサービス利用も視野に入れ検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はホームを家と捉え、家族の一員として言葉掛けにも配慮している。家庭的な雰囲気を大切に、お互いが助け合って生活していると思って頂けるよう、本人のできる事は依頼し、暮らしを共に出来るよう取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	時々状態の報告を行い、家族の訪問時には家族と利用者が共に楽しく過ごせるよう空間作りを心掛けている。いつでも気軽に来て頂けるよう、職員は常に心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の夏祭りや運動会、福祉祭等に参加し、顔見知りの方々と話される機会を持っている。また年末年始等、帰宅支援も積極的に行っている。	友人、知人の来訪が多くあり、また、他のグループホームの職員が利用者を知り合いで気軽に来訪している。電話や手紙を職員のお手伝いで出す方や携帯電話を利用している方もいる。更に近隣の美容院に出掛ける利用者もあり、利用前からの関係が継続できるように取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに助け合ったり尊重し合える様な声掛けや見守りを通じ、支援に努めている。また認知症レベルや性格等を理解し、交流を図れるよう場面作りや、関係性を保ち共に生活出来るよう支援している。		

グループホームコスモス松川・2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も家族と連絡を取る等、交流を図っている。年賀状等、季節の挨拶も大切にしており、退居された方の家族が訪問したりと良い関係が保たれている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別ケア時に本人の思いをじっくり傾聴し、希望や意向を把握し共有できるよう努めている。また本人の希望に沿える環境に近付けるよう、職員全員で検討し支援している。情報は記録に残し共有できている。	現状、多くの利用者が自分の思いを伝えられる。利用者や職員との良好な人間関係の構築に心掛け、心地よい会話のやり取りが出来るよう取り組んでいる。利用者の本当に望んでいることは何かを見極め、普通の問い掛けからさりげなく体を寄せ利用者の目線や仕草から判断し、希望に沿った支援が出来るよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、家族、担当ケアマネジャー等から、生活歴や趣味等の把握に努めている。また、家族とも話しやすい関係を築き、昔の話等を聴きサービスに活かせるよう取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりのその日の体調や心の変化に配慮しながら個別性を尊重し、支援に努めている。また、その方らしく生活をして頂けるような関わりができるよう心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の状況・ご家族の意見を反映し、モニタリング、介護計画を作成している。日々の状況は個人記録に記載、申し送りから意見交換、連絡ノートにて共有し、プランに取り入れている。	全職員が全利用者に注力し、日々の状況を申し送りノートに記録として残し情報を共有し、職員会議でモニタリングを行いケアマネジャーがプラン作成を行っている。通常6ヶ月に1回見直しが行われており、状態に変化が見られた場合には家族にも連絡を取り即時の見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化等、介護記録・申し送りノートに記入し、対応の変更にはノートの情報を共有している。また起きた出来事、ケアの気づきを記録し検討することにより見直しに繋がるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者1人ひとりの希望やケアからの気づきにより、実現可能な事は積極的に取り組む事を積み重ね、サービス構築と満足度の向上に繋がるよう努めている。		

グループホームコスモス松川・2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの行事参加、地域の方々等、様々な方達と関わり、また利用者がその環境において生活している事を実感できるよう支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に応じて適切な時に適切な医療が受けられるよう支援に努めている。通院時には必要に応じて職員が同行し、主治医との相談を行い、必要に応じて添書を持参し、家族への受診結果の引継ぎも行っている。	法人のクリニックと地元総合病院を本人、家族の希望により決めている。法人クリニックは月2回往診で対応し、総合病院は往診と家族あるいは職員付き添いで受診対応となっている。なお、法人クリニックの主治医から24時間対応で緊急の際の指示を受けることができるように体制を整えている。薬も近隣薬局と契約を結び配達、管理がされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内のクリニックや協力医療機関と連携を図り、健康管理について相談している。また生活の中での健康維持に関するアドバイスを受け、ケアに反映できるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から、小さな変化を見逃さないよう、入院回避に努めている。入退院時には相互間の情報交換を行い、病院・提携医療機関・家族との話し合いにより、早期退院に繋げている。また面会に行き、少しでも安心して頂けるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状況に合わせ、主治医・医療機関・家族等で話し合いの場を設け、主治医から見解を頂いた上で、家族から希望を聞き、希望に沿うよう努めている。段階に応じて話し合いを行っている。	利用契約時に事前指示書により本人、家族の希望を聞き、それに沿った支援に取り組んでいる。状態が変化した場合には家族の意向を確認し、主治医や医療機関と相談し利用者にとって最良の方法で支援出来るよう取り組んでいる。終末期の支援についてはホーム内部で話し合いを重ね方針を統一し職員も心の準備をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応について全職員が把握している。応急手当等の実践力を身につけ適切な初期対応ができるようミーティング等にて確認し取り組んでいる。またAEDを設置し、全職員講習を受け、対応が可能。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年2回(夜間・日中想定)行い、通報・避難・初期消火訓練を行っている。消防署をはじめ、地域防災担当者を招き、地域住民と協同し消火訓練の実施に努めている。	年2回利用者も参加し防災訓練を実施している。そのうち1回は消防署員参加の下、放水消火訓練を行っており、訓練に参加している利用者の様子もホーム内の写真で紹介されている。通報訓練や緊急連絡網の確認等も行われ、夜間想定では利用者を布団に乗せて外へ避難する訓練も行い、防災意識を高めている。	

グループホームコスモス松川・2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケア全体について個々の人格を尊重した対応を心掛けている。言葉遣い等、気付いた時に話し合い検討している。	良好な人間関係を構築し、心地よく話のやり取りが出来るよう心掛けている。呼び方は尊敬と親しみの気持ちを込め苗字にさん付けでお呼びしている。利用者の希望に沿って地域の方言を使って呼び方を変えることもある。居室に入る時には必ずノックをし、トイレには特に気を使い、ドアに「入、空」の札を掛けプライバシーの確保に取り組み、更に法人の研修会等で理解を深め周知徹底を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本位を徹底し、意思表示の難しい利用者は、言動や行動から想いを読み取り、意思確認に努めている。また、生活空間を柔軟に作り変え環境・雰囲気作りに取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大切に、その中で希望に沿ったり、心身状態に合わせた支援を心掛けている。感情は流動的であるとの思いを持ち支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の嗜好や個々に合った髪型、服装、化粧等、職員も楽しみながら選んで頂いている。洋服の買物、バランスの取れた着方等、家族からの希望・要望も支援に反映できるよう取り組んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力量・希望に応じ、野菜の皮むき、盛り付け、食器洗い等の役割りを持って頂いている。また食事時間は決まっているが、利用者に合わせて時間をずらす等、柔軟な対応が出来るよう取り組んでいる。	お粥、キザミの方が一部いるがほとんどの利用者は自力摂取で、また、常食である。職員も一緒に食事を取り、話にも花が咲き楽しい食事の時間を過ごしている。厨房専門職員が食事を作り、食材は毎日配達され足りない物は利用者同行で買い出しに出掛けている。誕生日には食べたい物を聞き楽しんでいただいている。正月等、節目の時には季節の料理を提供し、美味しく、楽しい食事が出来るよう心掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりに合った時間と食事で食事を提供出来るよう配慮している。摂取量の観察を行い記録に残し、ケアに反映できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に合わせ、利用者の出来る所はやって頂き、出来ない所は職員が介助する形で毎食後行っている。		

グループホームコスモス松川・2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし、さりげない誘導で、自立に向けた支援を目指している。尊厳を大切にしながら、出来る限り失敗を減らす取り組みを行っている。	自立の方が数名、一部介助の方が半数強、全介助の方が三分の一ほどで、リハビリパンツの方が三分の二強、布パンツとおむつ使用の方がそれぞれ数名ずつという状況である。排泄チェック表に記録を残しパターンを掴み、起床時や就寝時、毎食後などに声掛けをトイレでの排泄に取り組んでいる。排便については特に気をつけ、きめ細かく声掛けし、気持ち良く生活していただけるように取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録によりパターンを把握し、便秘を見逃さず、それによる影響を常に考え取り組んでいる。便秘対応として、水分補給、運動、牛製品等、工夫した支援を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調を考慮し、声掛けや誘導・入浴方法も個々に合わせた支援に努めている。希望とする時間帯や頻度に応じ、1対1のゆっくりとした時間の中で思い思いの入浴を楽しんで頂けるよう心掛けている。	基本的には週2回の入浴としているが、希望があれば更に入浴出来るようにしている。自立の方は若干名で、一部介助の方が三分の二、全介助の方が三分の一弱という状況で、現在、入浴拒否の方はなく、季節の入浴剤等を使い楽しく入浴出来るよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の良眠を得る為、日中を活動的に過ごせるよう努めている。家事参加、体操、適度な午睡等の支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人ひとりの服薬している目的や副作用等を個人ファイル綴り、職員は把握に努めている。また変更時は症状の変化の確認に努め、服薬の支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりの楽しみの把握や役割をイメージしながら、それぞれの得意な分野で力を発揮してもらえよう、協力を依頼し、感謝の言葉を伝える機会を増やし自信となるよう支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせた外出行事や日常の散歩、買い物、畑仕事等で、積極的に外に出る機会を作り、支援している。	季節により天気の良い日にはホームの回りを散歩したり、ベランダに洗濯物を干すお手伝いをさせていただきながら外気浴を楽しんでいる。天候に合わせて少人数に分かれドライブに出掛け気分転換を図り、また、春にはお花見、秋には紅葉狩等に弁当を持参し出掛けしている。更に、商店街の夏祭りや屋台を楽しんだり、獅子舞のホームへの来訪などで楽しんでいる。	

グループホームコスモス松川・2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理が難しい方は、家族から了解を得て現金出納帳を活用し管理をしている。買い物の時、希望があれば購入できるよう支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に沿って電話を掛けたり、年賀状等を出している。また郵便物やお届け物、留守の時の電話は必ず本人に伝え支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気や大切にし、家庭と変わらない空間作りを心掛け、入居者と季節感のある居心地の良い環境作りに取り組んでいる。清潔を保持する為、毎朝一緒に清掃を行っている。	利用者が一日の長い時間を過ごすホール兼食堂は十分な広さが確保され寛ぎの場となっている。壁には「ふれあい広場」に出品した数多くの利用者の作品が貼られ、利用者の手による生け花も飾られている。また、デジタルカメラで撮影された日常生活の写真が数多く紹介され、家族来訪時には一目で分かるように工夫されている。畳敷きの小上がりは通所利用者のお昼寝に利用されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で話せるよう、席の場所を工夫したり、開放されている和室を利用して頂く等、居心地の良い環境作りに取り組んでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の生活習慣を尊重し、使い慣れた物や好みの物が使える配慮を行っている。家族の写真や仏壇、タンス等大小問わず居室に配置して頂き、個性や生活歴を感じる部屋になるよう工夫をしている。	整理整頓や掃除が行き届き、心地よく過ごせる空間となっている。持ち込みは自由で使い慣れた家具や家族の写真、ご自分が制作した作品が数多く飾られ、ゆったりとした生活を送っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人らしい生活を尊重し「できること」や「わかること」については、個々の状態に応じて力を活かしてもらっている。残存能力を低下させない為、自立した生活が送れるよう支援している。		